

第 52 回 令和 7 年 6 月 27 日（金）

「時代の加速化について。」

みなさんはあまり想像できないと思いますが、私が学生のころ、はじめて携帯電話が登場しました。小さめの段ボールを肩からかけるタイプで、持っている人はほとんどいませんでした。

その後 P H S（携帯の世代としては 2 G）といって安価な通信機器が販売されました。携帯電話の通話料がかなり高かったので、こちらも一時は売れましたがなにしろ基地局が少なくてつながらないので自然と消えていきました。

現在は 5 G の時代ですが、やがて 6 G になると言われています。おそらくいまから 10 年くらいでしょうか。6 G になると映画 1 本のデータは 0, 5 秒くらいでダウンロードできると言われています。

グーグルマップも眼鏡をかけるとそこに表示されるということで、まさに S F 映画のような時代ですね。きっと会ったことがある人は顔認証で名前とかプロフィールが出てくるのではないのでしょうか。

A I もシンギュラリティーに到達し、自分で機能を高める時代になるかもしれません。認知症の高齢者の介護も形が変わるかもしれません。危険がある場合は全部回避してくれるようになるのではないのでしょうか。

スマホの普及はおよそ 8 年だったそうです。いまから 100 年前はラジオの時代、150 年前は侍の最後の時代ですから、時代の加速は信じられないほど速くなっています。

技術というものは 90% 以上、新しい開発ではなく従来の技術の組合せで生まれるのだそうです。だから教科横断型の学びや探究型の学びが大切になってくるわけです。

進化と呼ぶことが正しいかどうかはわかりませんが、物心ついた時からスマホがある「スマホネイティブ世代」がみなさんですが、みなさんの下の世代は「ウェアラブルネイティブ」とか「シンギュラリティーネイティブ」になるかもしれません。我々が技術に置いて行かれそうになっているように世代間のギャップはますます深まるのかもしれません。

「変わらず残さなくてはいけないもの」は何なのか、しっかりと考える必要があります。その大部分は人間相互の結びつきではないかと思います。そしてそれを考えたり伝えたりする仕事が「教育」の役割ではないかと思っています。